

笑顔でキョロロを頼張りたい

栃木県 栃木市立大平南中学校 三年

冨田 彩夏

足の裏から全身へ、今までに感じたことの
ない違和感が伝わった。東日本大震災。福島
第一原発の爆発事故。あの日を境に、私の生
活は大きく変わりました。放射能の影響を恐
れ故郷である福島を離れました。放射能。無
味無臭の物体。前例が無く、体への影響は
つきりしない恐怖。

事故から半年経った夏。いつものように野
菜をくねた祖父母。しかし父は、「放射能が
怖いから」と言いました。あの時の祖父母の
顔は今でも目に焼きついていきます。採りたて
のキョロロを塩でゴリゴリしただけのものか
私は大好きでした。祖父母と暑い夏に収穫し
たキョロロは格別でした。あの時も、本当は
笑顔で受け取りました。ありがとうと伝え
たかった。しかし、それさえ叶わない。肌で
感じた福島の変化。もろろん、生活を变えた

のは、私だけではありません。自分の故郷に足を踏み入れることさえできない人もいます。多くの人がか目に見えない物体が引き起こす、シレニマと戦っています。

誰が悪いのでしょうか。原発の設計者か。東京電力の責任者なのか。いや、誰も悪くはありません。少し前に、原発事故が東京でなく、良かた。と発言をした、復興大臣がいましました。Xデイズは彼を叩き、結局辞任しました。しかし、彼の言葉尻を避難して、福

島の現状は変わつたのでしょうか。すでに起こつてしまつた現状を誰かのせいにして、何にたむのでしようか。もし、悪かつた人を決め、その人を追及したならば、胸を張つて福島に帰りますか。そんなことで放射能がなくなるなら、復興にはたかるとは思いません。一つ、言うることは、現状を憎み、その責任を追究して、誰も何も解決しないという事です。そして、誰も放射能に對して、どう対処していいのかわからないという事です。

正直、福島で一年半を過ごした私は、栃木
 でも体元の不守を感じて生活していました。
 でも今は、あまり感じません。それは栃木の
 人たちが優しさにかあってくれます。とい
 守な時にも、辛い時も、いつも笑顔で話しかけ
 てくれた友達や、地域の人たちがいました。
 そんな人々とつながっていくうちに、
 ヨシ、聞いても何も変わりない。そう思えるよ
 うになりました。その中で私は、人のぬくも
 りを知りました。今でも震災の被害や不治の
 病など、答えがないものに対して不守を持ち
 ながら生活している人から沢山います。震災を
 経験したからこそ気づけた人の優しさを伝え
 たい。そして私は、人の不守を暖和できる人
 でありたい。ひいては、責任を追及し合うの
 ではなく、不守な気持ちや認め合い、協力し
 て復興に取り組める日本でありたい。
 復興の近道、それは除染なのか。汚染さ
 した廃棄物を埋めることなのか。答えは見えま
 せん。それでも手を取り合って、復興につ

て考えていくことか必要です。時間はかかる
かもしれませんが、私は福島に戻り、
祖父母の作ったキウウリを思い、子リ頼張り
たいと考えています。私の代で叶わなくても
長い月日を経ず、子孫が故郷で心おきなく野
菜を頼張ることかできたなら、そのか私たち
か「復興」について真剣に考え、生きた証に
なるのではないうでしようか。